

3. 配植の方針

「配植の方針」の位置づけ

「配植の方針」は、公園全体を見たときに、それぞれの施設や場所の特性を活かしつつ、公園全体としてバランスのとれた植栽とするための考え方をとりまとめたものである。具体的な配植の検討は、この「配植の方針」を基本的な考え方として、各ゾーンの植栽計画の検討段階において行うものとする。

「配植（案）」の取り扱い

- ・以下の「配植（案）」は、「配植の方針」に基づき、公園全体の観点から配植を検討し、現時点の案として図化したものであり、具体的な配植を定めたものではない。
 - 図：花木類の配植（案） 42 頁
 - 図：常緑・落葉広葉樹の配植方針図 64 頁
 - 図：針葉樹の配植（案） 69 頁
- ・各ゾーンの植栽計画を検討する段階においては、ゾーン内の詳細な植栽状況や諸条件を勘案して、改めて配植（樹種、配置、密度など）を検討する必要がある。

植栽樹木の樹種選定の考え方や基調樹種（マツ、スギ、サクラ、カエデ）の配植の基本的な考え方については、前項「2. 植栽の方針」の方針－1、方針－2で設定されているが、これら以外の花木類や針葉樹、常緑・落葉広葉樹の配植の考え方は設定されていない。しかし、基調樹種以外の樹種の中にも公園を特徴づける分布傾向がみられるものがあるほか、花木類では基調樹種であるサクラやカエデがそれ以外の花木と混在しているため修景的な魅力がそがれている所も見受けられる。このため、基調樹種及びそれ以外の樹種をあわせて、公園全体から見た配植の考え方をまとめておくことが必要なものについては、これを方針として設定する。

但し、「配植の方針」は公園全体から見た場合の配植の考え方を示したものであり、取り扱っている樹種には、植栽本数が少ないものや密度が低いものも含まれており、本項で図化された配植（案）がそのまま具体的な配植図になるものではない。各ゾーンの植栽計画を検討する段階においては、ゾーン内の詳細な植栽状況や諸条件を勘案して、改めて配植を検討する必要がある。

方針一 7 花木類は、奈良公園の歴史文化や景観との調和を図り、公園の魅力をアピールする配植とする。

○植栽樹種（方針一 2 参照）

高 木：ウメ、サクラ類、サルスベリ、フジ、カエデ類、シダレヤナギ、モクレン類

中低木：ツバキ、アセビ

避けるべき外来種：ハナミズキ（北米原産）、タイサンボク（北米原産）など

○配植方針（配植案は 42 頁の図参照）

①歴史文化的に重要な花木類を保全・継承する。（36 頁の図参照）

いわれのある花木類

明治～大正より受け継がれた花木類、大木

②景観的に重要な花木類を保全・継承する。（38 頁の図参照）

歴史的建造物や河川・池沼と一体となった花木類

花見や紅葉狩などの利用が多い花木類

動線の修景効果が大きい花木類

○各ゾーンの植栽計画において配慮すべき事項

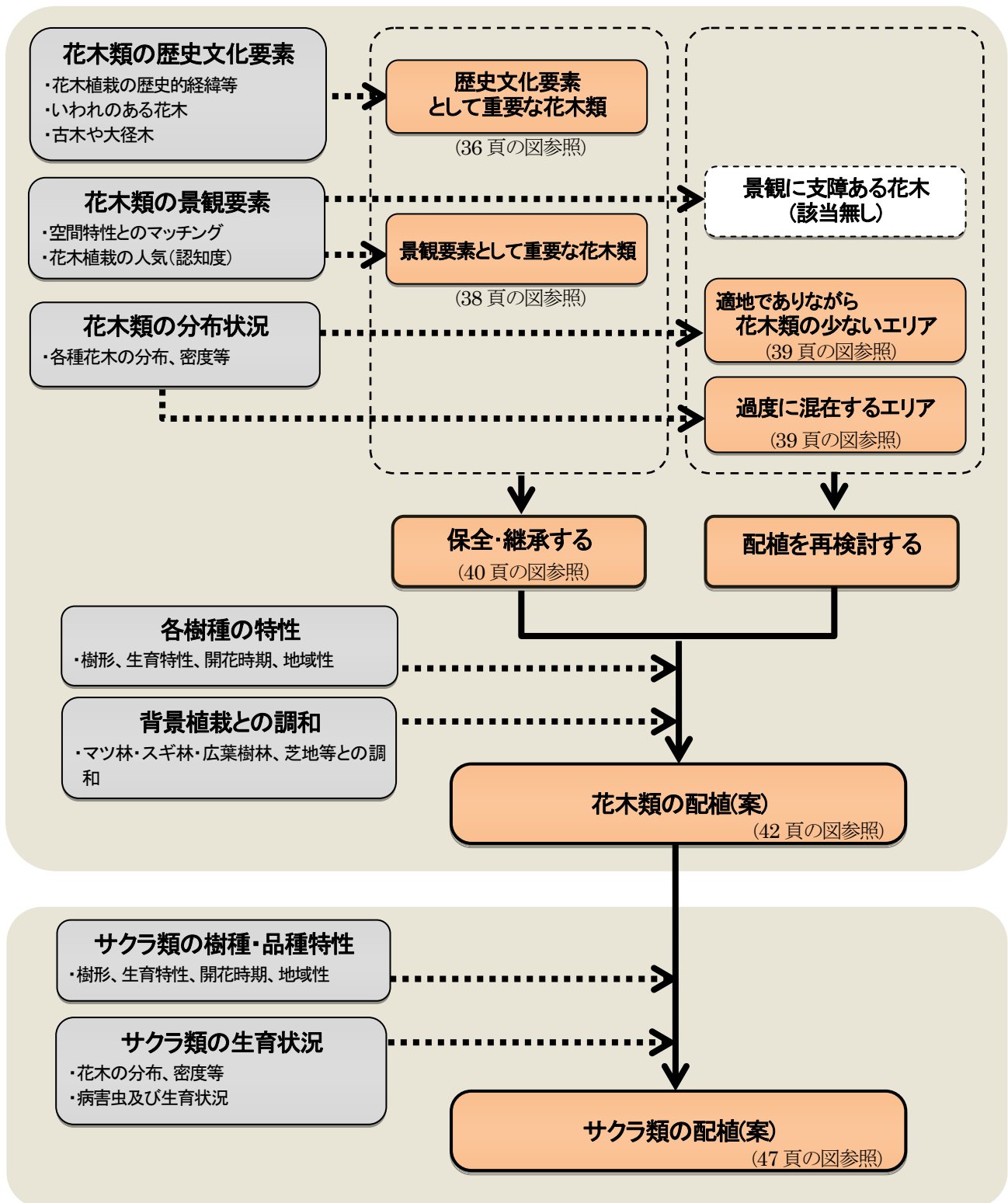
③マツやスギ、芝地等の花木類の背景となる植栽と調和した配植とする。

④立地や他の植栽との関わりから花木類の魅力が引き出せない場合は、花木植栽を控える。

（42 頁の図参照）

○花木類及びサクラ類の配植検討フロー

花木類の配植検討は、以下のフローにより行う。



図：花木類及びサクラ類の配植検討フロー

以下、このフローに従って現時点での花木類の配植検討を行い配植(案)を作成する。この配植(案)は現時点での考え方を示したものであり、今後実施される各ゾーンの植栽計画を検討するための参考資料とする。

①花木類の歴史文化的要素

名勝奈良公園保存管理・活用計画(H21)、樹林調査(H24)、重要樹木調査結果(H25)より、歴史文化的な価値があると考えられる花木類を抽出した。

○「歴史文化的な価値がある花木類」として抽出した要素

- ・ 歴史的経緯のある花木類
- ・ いわれのある花木類
- ・ 古木や大径木

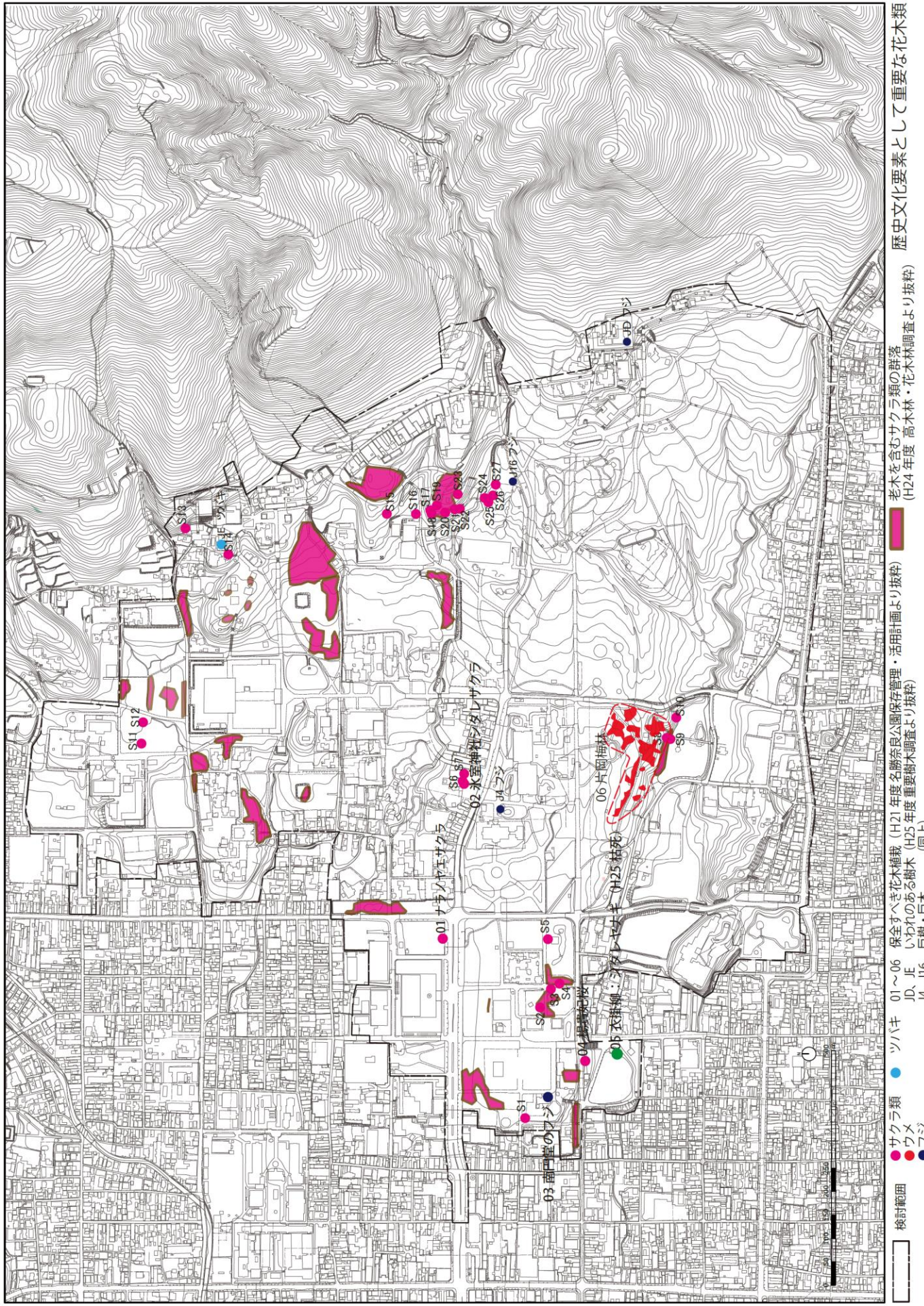
○抽出対象樹種

ウメ、サクラ類、サルスベリ、カエデ類、シダレヤナギ、モクレン類

※フジは分布や樹種特性が特殊であるため含めていない。

○抽出するために活用した調査資料

- | | | |
|------------------|---------|-----------------|
| ・ 「いわれのある樹木」 | 平成 21 年 | 名勝奈良公園保存管理・活用計画 |
| ・ 「老木を含むサクラ類の群落」 | 平成 24 年 | 高木林・花木林調査 |
| ・ 「花木の大木」 | 平成 25 年 | 重要樹木調査 |



図：歴史文化要素として重要な花木類

②花木類の景観的要素

景観調査(H25)及び現地踏査より、景観的な価値があると考えられる花木類を抽出した。

○「景観的な価値がある花木類」として抽出した要素

- ・歴史建造物や河川・池と一体の景観をつくる花木類
- ・眺望景観の重要な要素となる花木類
- ・花見利用が多い花木
- ・動線を彩る花木類
- ・庭園やエントランスを彩る花木類

○抽出対象樹種

ウメ、サクラ類、サルスベリ、カエデ類、シダレヤナギ、モクレン類

※フジは分布や樹種特性が特殊であるため含めていない。

○抽出するために活用した調査資料

- ・「花木の群落」 平成 24 年 高木林・花木林調査
- ・「サクラの分布」 平成 25 年 樹木分布調査



A 浮雲園地から若草山に向けての眺望景観を構成するサクラ類



B 鷺池池畔のサクラ類



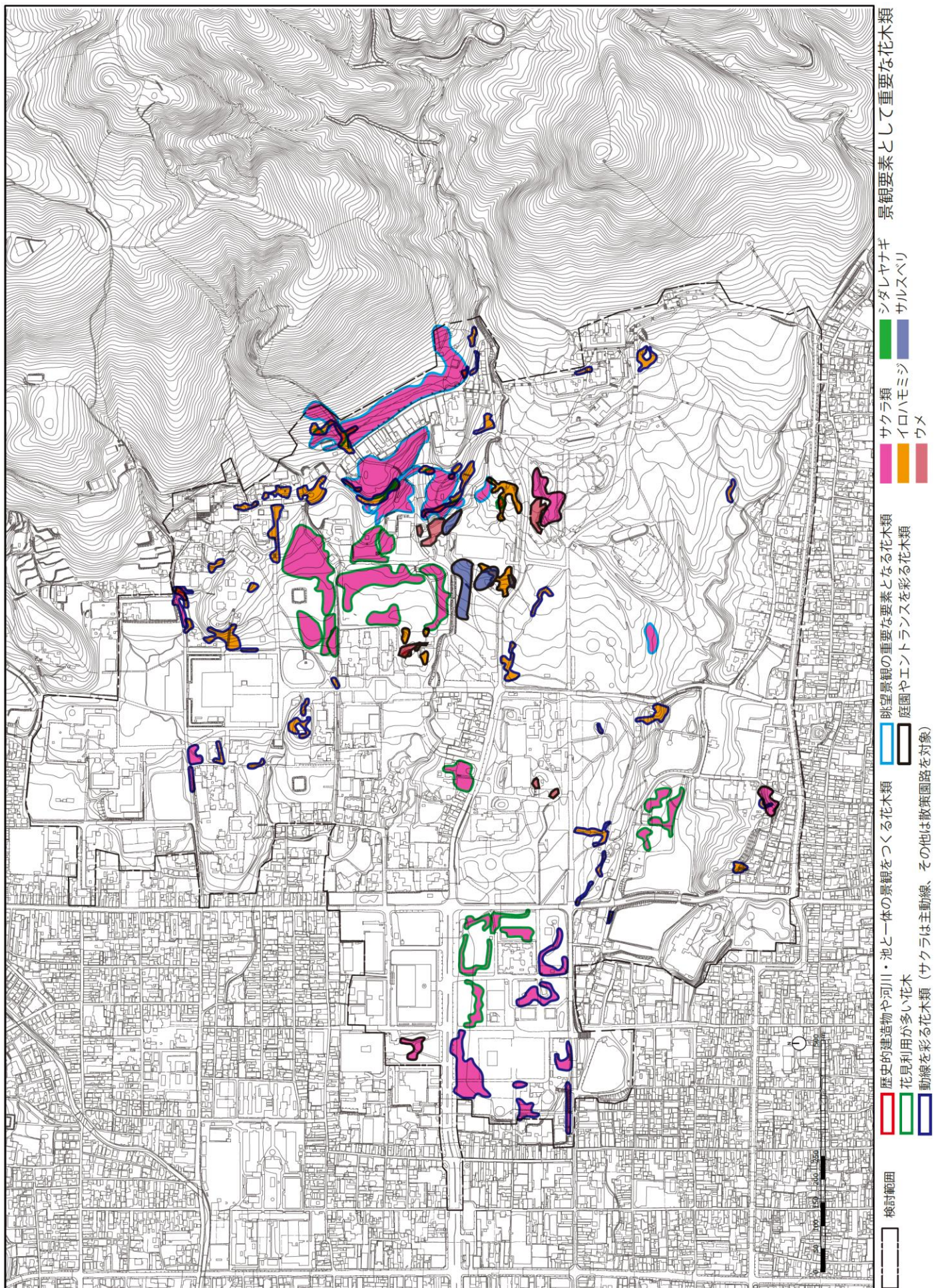
C 旧奈良県物産陳列所のサクラ類



D 東大寺大仏殿西側のサクラ類

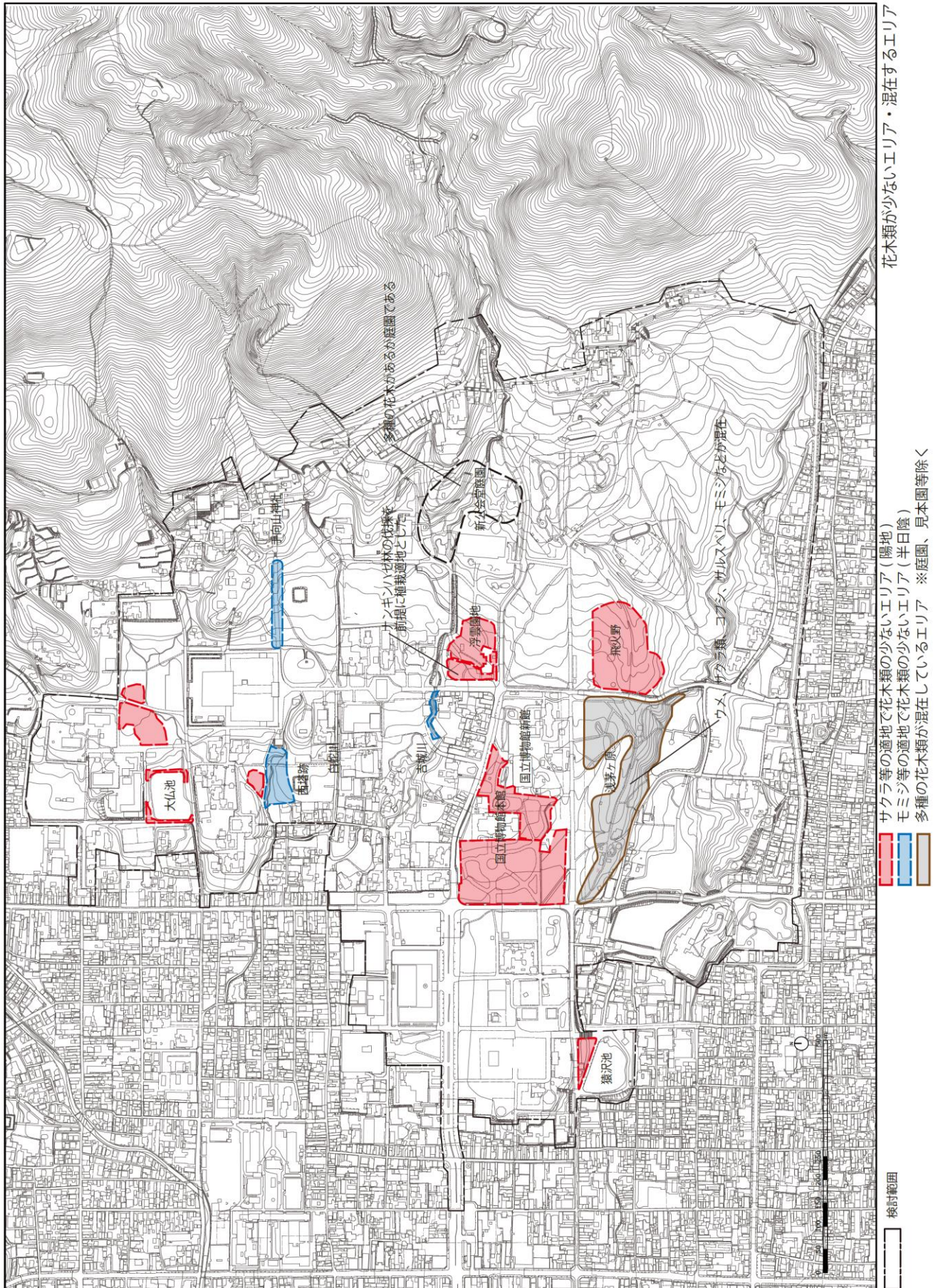


E 東大寺大仏殿北側のサクラ類



③花木類の分布状況

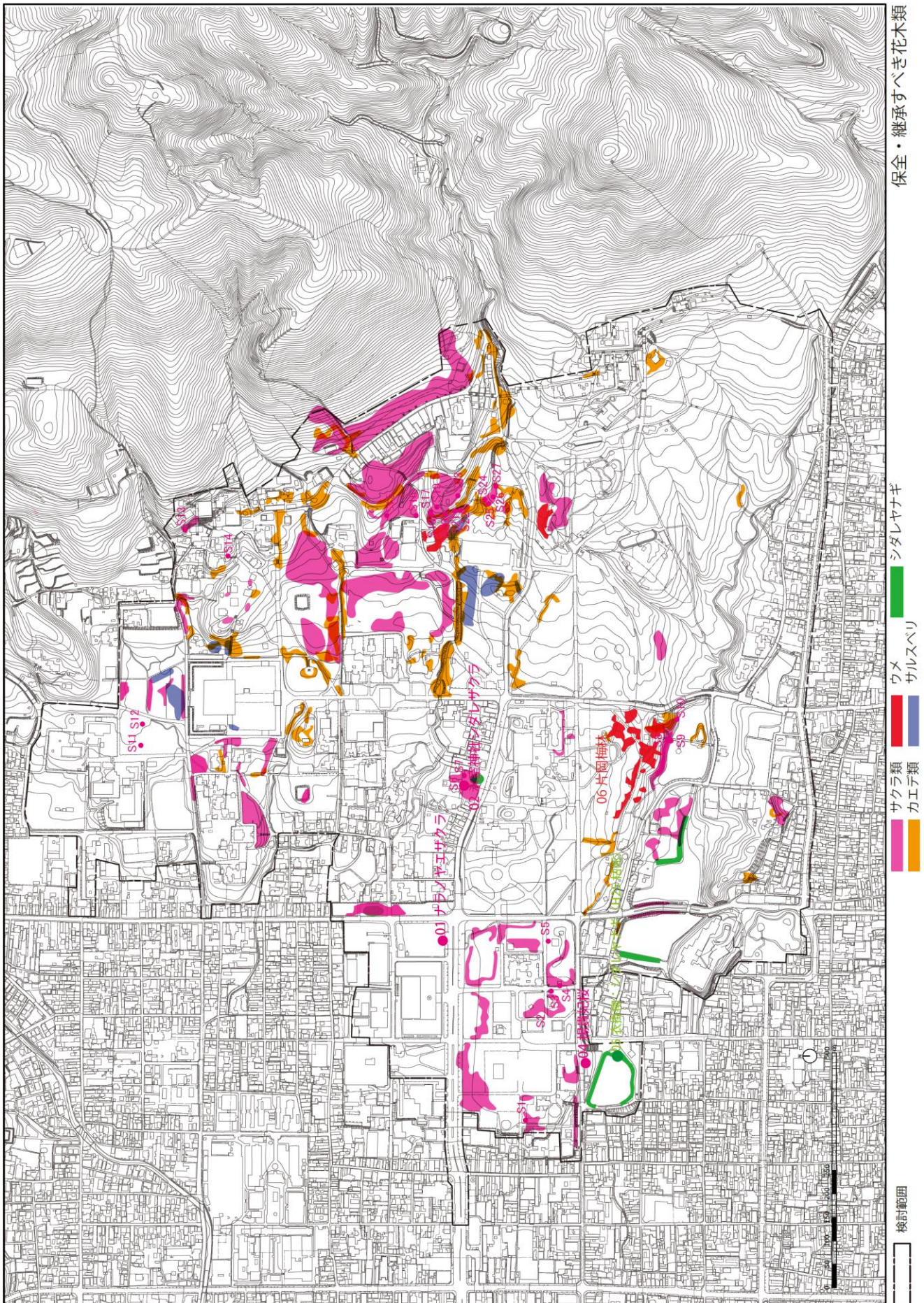
樹木分布調査(H25)及び現地踏査より、各花木類の適地でありながら花木類の分布が少ないところや多様な花木類が混在するなど、花木類の配植を再検討すべき範囲を抽出した。



図：花木類が少ないエリア・混在するエリア

④保全・継承すべき花木類

①、②の結果を重ね合わせて、保全・継承すべき花木類を整理した。



図：保全・継承すべき花木類